

埼玉県内企業の 2016 年度上半期および通期業績見通し調査

調査企業：県内企業 567 社

調査方法：アンケート方式 (2016 年 8 月中旬 郵送回収)

回答企業：232 社 (回答率 40.9%) 業種別内訳：製造業 133 社 非製造業 99 社

要旨

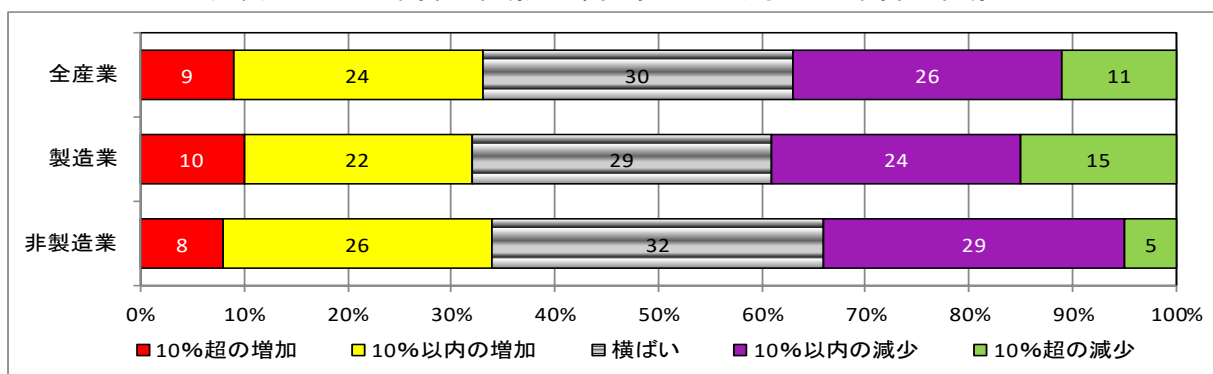
- 埼玉県内企業の 2016 年度上半期売上高の見込みは、全産業で、「10%超の増加」と大幅な増収を見込む企業は 9%と約 1 割であった。業種別にみると、製造業は 10%、非製造業は 8%であった。「10%以内の増加」とする企業を加えると全産業で 33%となり、3 分の 1 の企業で「増収」としている。一方で「10%超の減少」と「10%以内の減少」を合計した「減収」としている企業割合は 37%と、「増収」とする企業を上回った。
- 上半期経常利益の見込みは、全産業で、「10%超の増加」と大幅な「増益」を見込む企業は 14%であった。業種別にみると、製造業の 18%に対し、非製造業は 9%に止まった。一般機械器具、電子部品・デバイス等で大幅増益の企業が目立つ。
- 通期売上高の見込みは、全産業で、「10%超の増加」と「10%以内の増加」を合計した「増収」の割合は 35%、「10%超の減少」と「10%以内の減少」とする企業を合計した「減収」の 33%を上回っている。
- 通期経常利益の見込みは、全産業で、「10%超の増加」と大幅な増益を見込む企業は 15%で、業種別にみると、製造業が 17%、非製造業が 13%であった。製造業で上半期比 1 割減少しているものの、非製造業で上半期比 4 割拡大している。

1. 2016 年度上半期売上高の見込み (対 2015 年度上半期比：有効回答数 229)

2016 年度上半期売上高の見込みについてたずねたところ、全産業で、「10%超の増加」と大幅な増収を見込む企業は 9%と約 1 割であった。業種別にみると、製造業は 10%、非製造業は 8%であった。次に「10%以内の増加」と回答した企業は 24%となっており、合計すると 3 分の 1 の企業が 2016 年度上半期も前年同期と比較して増収としていることがわかる。またこの傾向は製造業、非製造業ともほぼ変わらない結果となった。

一方で「10%超の減少」と「10%以内の減少」を合計した「減収」とする企業は全産業で 37%となっており、「減収」とする企業が「増収」とする企業を上回っている。業種別に「減収」とする企業は製造業では 39%、非製造業では 34%となった。製造業での「減収」とする企業が 7 割「増収」とする企業を上回り、「減収」と「増収」がともに 34%で拮抗している非製造業と比較し苦戦がうかがわれる。

図表 1. 2016 年度上半期売上高の見込み (対 2015 年度上半期比)

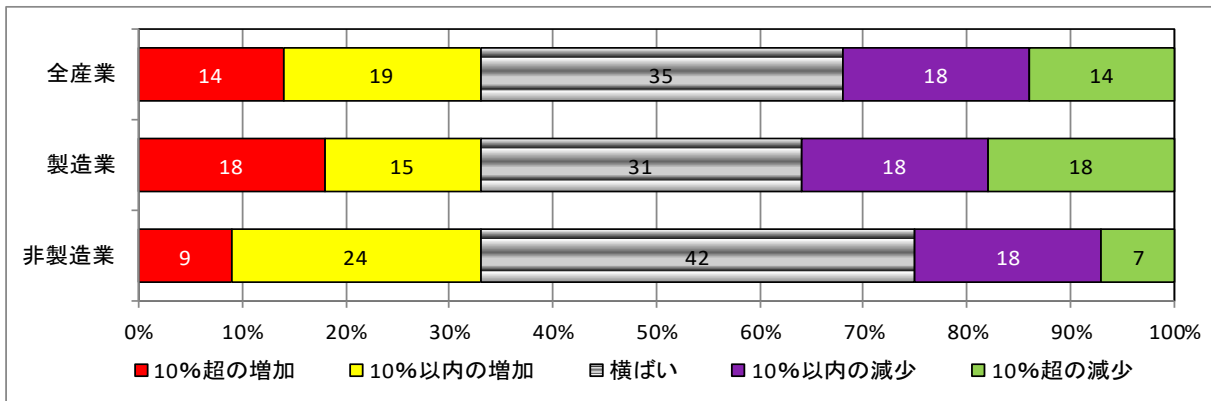


2. 2016 年度上半期経常利益の見込み（対 2015 年度上半期比：有効回答数 2 2 9）

2016 年度上半期経常利益の見込みについては、全産業で、「10%超の増加」と大幅な増益を見込む企業は 14%であった。業種別にみると、製造業の 18%に対し、非製造業は 9%に止まった。製造業は医薬品の化学、スマホ用部品で新製品の立ち上がっている電子部品・デバイスのほか、一般機械器具、輸送用機械などで、非製造業は量販店などの小売でみられた。次に全産業で「10%以内の増加」とする企業は 19%となっており、上半期経常利益を「増益」とする企業の割合は 33%となった。2016 年度上半期は全産業で「増収」とする企業が 3 分の 1、「増益」とする企業も 3 分の 1 となっている。これは売上見込み同様の傾向となっている。

一方、業種別にみると、「10%超の減少」と「10%以内の減少」と回答した企業は製造業で 36%、非製造業は 25%となり 11 ㊦と大きな違いがみられる。

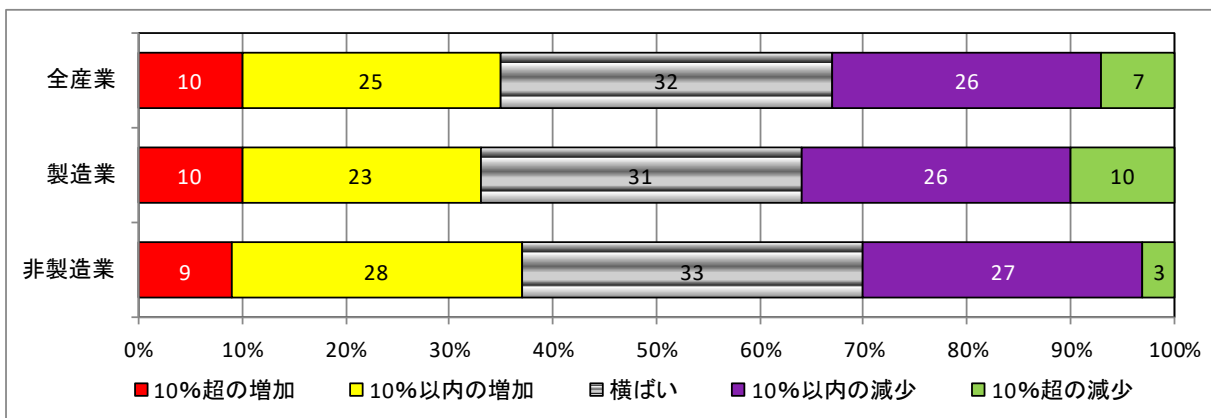
図表 2. 2016 年度上半期経常利益の見込み（対 2015 年度上半期）



3. 2016 年度通期売上高の見込み（対 2015 年度通期比：有効回答数 2 3 2）

2016 年度通期売上高については、全産業で、「10%超の増加」と大幅な増収を見込む企業は 10%で、業種別にみると、製造業が 10%、非製造業が 9%と、上半期とほぼ同様の結果となった。これに「10%以内の増加」の企業を加えると 2016 年度通期売上高を「増収」とする企業は、全産業で 35%、製造業で 33%、非製造業は 37%となった。それぞれの割合は 2016 年度上半期売上高を増収とした企業よりも全産業で 2 ㊦、製造業で 1 ㊦、非製造業で 3 ㊦と下期売上増が見込める企業が若干あることがうかがわれる。

図表 3. 2016 年度通期売上高の見込み（対 2015 年通期比）

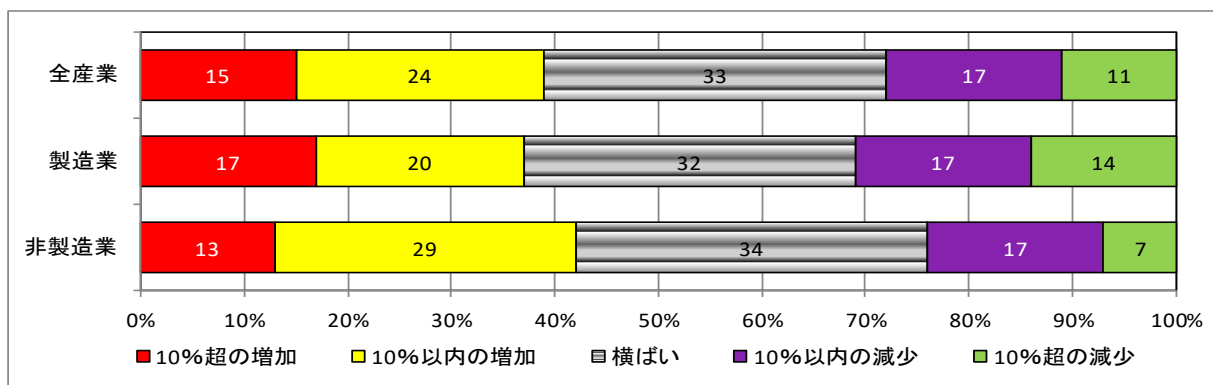


一方、全産業で、「10%超の減少」と大幅な減収を見込む企業は7%で、業種別にみると、製造業が10%であったが、非製造業は僅か3%に止まった。

4. 2016年度通期経常利益の見込み（対2015年度通期比：有効回答数231）

2016年度通期経常利益の見込みについては、全産業で、「10%超の増加」と大幅な増益を見込む企業は15%で、業種別にみると、製造業が17%、非製造業が13%であった。この結果は上半期経常利益見込みとほぼ変わらないものの、「10%以内の増加」の企業の割合を加えると、全産業で39%、製造業で37%、非製造業で42%となり、上半期経常利益の「増益」とする企業をそれぞれ上回り、とくに非製造業は9割上回る結果となった。

図表4. 2016年度通期経常利益の見込み（対2015年通期比）



5. まとめ

埼玉県内企業の2016年度業績見通しをみると、全産業の約3分の1の企業が売上高の増収を見込み、ほぼ同じ割合の企業が減収を見込んでいる。業種別に見ると大きな違いはないものの、製造業の方が非製造業に比べやや苦戦している実態がみてとれる。

次に経常利益の通期見込みについては、売上高の見込みとそう大きな違いは見られない。ただ「増益」とする企業は製造業で37%、非製造業では42%となる。売上高の増収と見込んでいる企業よりも4~5割多いことが注目される。

調査結果から、埼玉県内企業の上半期業績をみると、海外経済の減速、円高の悪影響を受けやすい製造業の方が、非製造業に比べ、売上高や経常利益の減少を見込む企業が多いなど、厳しい状況がうかがえる。通期でも、売上高や経常利益の減少を見込む企業が、製造業は非製造業に比べ多い状況は変わらないものの、上半期に比べその比率が縮小していることから、円高進行が一服していることを背景に下半期の業績持ち直しが期待されているものと推察される。

図表5. 2016年度売上高・経常利益の見込み

	売上高				経常利益			
	2016年度 上半期	2016年度 通期	2016年度 上半期	2016年度 通期	2016年度 上半期	2016年度 通期	2016年度 上半期	2016年度 通期
	増収(%)		減収(%)		増益(%)		減益(%)	
全産業	33	35	37	33	33	39	32	28
製造業	32	33	39	36	33	37	36	31
非製造業	34	37	34	30	33	42	25	24